

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 8月 10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500208		
法人名	医療法人エム・エム会		
事業所名	ぐるーぷほーむ九嶺		
所在地	広島県呉市本通一丁目1-1メガネ橋プラザ4階 (電話) 0823-22-9090		
自己評価作成日	令和3年6月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500208-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年8月3日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

呉駅より徒歩圏内ということもあり、家族等の訪問者も多く、入居者が穏やかに生活している。協力医院がリハビリテーション病院であり、希望者は外来でリハビリ通院し、歩行訓練等を実施している。四季の飾り物を利用者と職員で作って季節を感じて頂けるよう工夫している。地域との交流を図るため、外部からボランティアの慰問等お願いしていますが、今年度はコロナ禍にて実施できていません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人医療機関との連携に伴いリハビリの充実が特色となっている。希望者には、週3回のリハビリ通院が継続され、歩行訓練など行い、身体機能の維持向上を図る取り組みをしている。毎月、利用者の個別ケア会議を開催し、医師、リハビリ職員からの助言を頂き、生活の質の向上に取り組んでいる。何事も利用者本位で物事を考え利用者個々の希望や意向は反映され、可能なことは実現できるように支援している。法人や開設からの理念に加え、3カ月毎の期間目標の標語を策定し、内容も端的で具体的になっており、各期間で振り返り共有を図ることで職員の意識づけとなっている。直近では、令和3年6月から訪問看護ステーションとの連携を図り、医療連携の更なる進化に取り組んでいる。それらの特性を活かした医療連携が事業所の強みでもあり、緊急時の対応も含め利用者個々のマニュアルを整備している。今後は、消防署職員との連携を図り、緊急時の対応をより強化したいと考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	掲示板に掲示し常に意識するよう毎朝申し送り時唱和している。毎月の職員会議で理念に基づいた行動ができてきているかの確認を行なっている。	開設当初からの理念を掲示し、毎日の唱和にて常に意識づけを行い実践の継続がある。理念を基に、毎月の月例会議で振り返りを行い、例えば、言葉遣い、身だしなみの注意喚起を行い、職員間でお互いが注意し合う環境である。法人内の医療安全委員会で、3か月毎に端的で分かりやすい標語の期間目標を策定している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域で行われる秋祭りや、協力病院で実施している認知症カフェ等、出来る範囲で参加している。集合住宅内の施設の為、防災訓練等住民の参加も今後お願いする予定でしたが実施出来ていません。	コロナ禍で地域の行事ごとの自粛が続いている。以前は、地域の秋祭りや花火大会、法人の病院では、認知症カフェを開催している。今年度は、地域包括支援センター主催で、市としては初めての「物忘れ・介護無料相談会」の催しの紹介があり、利用者の作品でフェルトバッグ、ちぎり絵などの作品展覧の準備をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等を通じて地域の人々へ事業所や入所者への理解を深めていただいている。今年はコロナウイルスの問題もあり思うように出来なかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の中で家族や行政、地域の人々からいただいた意見は積極的に取り入れるようにしている。又、他施設の職員にも参加して頂き、他の施設の情報も参考にしている。	本来の運営推進会議では、家族、市担当者など、多職種が参加している。コロナ禍での開催が難しいため、職員の毎月の話し合いの「月例会議」の議事録を送付することで事業所での近況報告を伝えている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	頻りに情報交換等を行い、関係は良好である。運営推進会議にも参加していただいていた。	今年度は特に制度改正もあり、市担当者とは日頃から相談や事故報告書を提出、必要時には電話連絡などで相談し、協力関係を築けるようにしている。運営推進会議の関りから、地域包括支援センター職員との関りが多く、連絡、相談することで協力関係も円滑に展開をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>体動の激しい利用者に関しては家族の承諾を得て、時間帯によって抑制をさせてもらう場合はあるが、原則は身体拘束を行わないケアを行っている。基本、一時的なものである。</p>	<p>年間研修計画の適宜実施や、月1回の月例会議で振り返り、事例検討など職員間で更に意識を高めている。例えば、利用時にベルト装着、介護衣着用など実施している事例も拘束廃止に向けた支援を行い解除した例がある。利用者支援について疑問があれば、話し合いを持つようにしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人内・外の研修や職員ミーティング等で学ぶ機会を設けている。また、職員間で注意し合える環境づくりに勤めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人内・外の研修や職員ミーティング等で学ぶ機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者や家族に解りやすい言葉で説明することを心がけ理解を得た後、書面で同意をいただいている。また、重要な事柄はマーカーを引く等工夫している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者や家族よりの要望は、できる限り施設運営に反映させるよう努めている。</p>	<p>現在、コロナ禍で家族の訪問が少ない状況が続いている。家族訪問時には、ホームでの近況報告や緊急を要する場合などは適宜電話連絡をしている。利用者や家族から貴重な意見を伺い連絡ノートを活用し、改善策に反映している。遠方の家族へは毎月の近況報告、適宜、写真など送付している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々のミーティングや月に1度の職員会議の場を設けている。 職員が意見や提案を言い出しやすい雰囲気作りに努めるよう努力している。</p>	<p>年2回の個人面談の実施や日々管理者が気を配って、職員個々の話し合いをしている。例えば、利用者の状況に応じて、変則勤務を柔軟に変更したり、資格取得のため、勤務調整などしやすい環境を整えている。今後、事業所内にインターネット環境を整備したいと考えている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の公休希望等はなるべく通すよう配慮している。 職員が意見や提案を言い出しやすい雰囲気作りに努めるよう努力している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修内・外の研修の参加には積極的な参加を促しているが昨年度は参加出来なかった。今年度はリーダー研修、実践者研修に参加予定である</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>研修の参加により同業者との交流の機会を設けている。また、他施設のレクリエーションや慰問の見学やボランティアで健康体操等お願いしていたが昨年度から難航している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前の段階で本人や家族の要望等を把握し介護計画に取り入れるようにしている。又、日々の観察で変化に気づくようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>本人や家族の要望や不安点等を聞き入れ、双方が納得できるよう話し合いの場を設ける等の工夫をしている。初期段階では小さな気づきも報告するようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>サービス利用を開始する前の段階より十分に話し合いの場を持つよう心がけている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人が安心して生活できるよう、職員の言葉かけや態度には注意をしている。また利用者から学ばしていただくという気持ちで対応するよう心がけている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会制限のため家族との交流は殆どのぞめなかったが、ドア越しや電話など出来る限りの事はした。また密に電話連絡をすることで安心していただけた。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人の関係者の訪問に関しては歓迎していたが、面会制限のため難しかった。差し入れ等は受け入れた。</p>	<p>市中心街の立地を活かし、昔ながらの商店街の風景を通じて、利用者それぞれの思いに触れながら利用者の過去の思いを大事にしている。知人などの訪問も多く、事業所としても再度訪問してもらえるように、快く対応している。現在はコロナ禍による面会制限下であり、差し入れなどは対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事や行事の際には利用者同士のコミュニケーションが円滑に行えるよう対応を行っている。問題が生じた場合は速やかに席替え等実施する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	当施設退所後も可能な範囲で近況を確認するようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が何でも言いやすい環境づくりに努めている。また、本人の言動や表情の変化を察し、希望や意向の把握に努めている。	生活歴や日常の会話などから意向を把握している。聞く時も利用者にとどまらずに漠然とした聞き方ではなく、利用者それぞれの答えが引き出せる答えやすい質問の仕方での工夫を意識づけて行っている。何事も利用者本位で物事を考え利用者個々の希望や意向は反映され、可能なことは実現できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前に可能な範囲で生活歴に関する情報を収集し、日常会話の中で生活歴がくみ取れるようコミュニケーションに工夫したりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人の性格や生活のペースに配慮しながら可能な範囲で洗濯や配膳、掃除等を行っていたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族、スタッフ等関係者と積極的なコミュニケーションを行い、いただいた要望等は介護計画に反映させるよう努力している。</p>	<p>日々関わっている職員からより深い関わりから想いなど詳しく知り得ることも多くある。毎月のケア会議で医師、リハビリ職員からの助言を頂き、プランに反映している。なるべく今の身体機能の向上、生活機能向上に向けたプランとなるよう見直しを重ねている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録簿や職員間の連絡ノートで情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や家族のニーズは可能な限り対応していただけるよう職員ミーティング等で検討し改善していただけるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>本人の趣味等を活かせるような地域資源の開発に努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医に関しては本人や家族に選択していただいている。かかりつけ医とは情報提供を行い合い、利用者へ反映できるよう努めている。</p>	<p>利用時に意向を確認しており、希望があれば以前からの主治医の選択も可能である。令和3年6月から訪問看護ステーションとの連携を図り、法人医療機関と様々な医療での連携が可能である。それらの特性を活かした医療連携が事業所の強みでもあり、緊急時の対応も含め利用者個々のマニュアルを整備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医の往診時、訪問看護師に些細なことでも相談し、指示を仰いでいる。質問したことをまとめ、マニュアル作成し簡潔に伝えられる様にしている。R3.6より訪問看護ステーションとの連携も始まった。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院関係者や家族等と連絡を取り合い、利用者の現状把握に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居前の時点で本人、家族の要望等聞き、当施設でどこまでの支援が可能であるか等の話し合いの場を設けている。入居中の場合はその都度本人、家族の意向を聞きながら話し合いを行うようにしている。</p>	<p>協力医の提案により、昨年終末期の医療に関する事前確認書を説明し意向確認をしている。日々の状態変化に応じて申し送りなどで共有している。希望を聴きながらできる限りきめ細やかに対応し、協力医などの協力体制において医療連携を行い適切に支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>施設内・外の研修等で定期的な訓練を実施している。また、急変や事故発生時のマニュアルを作成している。ミーティングの際研修を行い、緊急時の対応等訓練している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>施設内・外の研修等で定期的な訓練を実施している。また、急変や事故発生時のマニュアルを作成している。災害時のマニュアルを作成している。</p>	<p>災害時のマニュアルは整備している。年2回の避難訓練を行っている。同法人医療機関の応援などの体制が法人内で整備され、備蓄品も栄養課部門で準備している。新たな取り組みとして、集合住宅内の事業所のため、防災訓練など住民の参加を予定していたが実施出来ていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格の尊重やプライバシーの部分に関しては最大限の配慮をし声かけや対応を行っている。	年間研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。人生の先輩として、敬意を払い節度ある対応に心掛けている。尊厳を大切にケアを推進していくことが職員の意向からも挙がっており、期間目標を策定して取り組んでいる。1日2回の申し送りなど利用者が特定されないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	開かれた質問となるよう配慮し声掛け等を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望により入浴時間をずらしたり等可能な範囲で本人のペースに添えるよう努力している。無理強いはない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着る衣服等はなるべく本人に選択していただくよう支援を行っている。化粧をされる入居者には職員見守りの元誤食のないようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備や片付け等が可能な利用者には行ってもらっている。季節に応じた食事の提供等にも配慮している。可能な限り盛り付けや配膳をして頂いている。又、行事の一環としてお好み焼きや鍋パーティー等入居者と一緒に調理をし喜んで頂いている。	法人内の栄養課部門より調理された食材を利用し、白飯、汁物は事業所で調理し、提供している。月1回のイベント食では、お好み焼き、ソーメン流し、バラ寿司など提供している。誕生日には、本人の好みを聞いて反映している。行事食には利用者が関わり、作るなど楽しみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量や水分量等は細めに記録を行い、摂取量等が少ない場合には管理栄養士などに意見を求めるようにしている。水分を摂りにくい方にはゼリーや果物で目先を変えて提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを促し、困難な利用者には職員が支援を行い清潔が保たれるよう配慮している。希望者は訪問歯科の利用もしている。現在週2回衛生士による口腔ケア実施。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表に記録し、本人の排泄パターンの把握に努めている。また、トイレでの排泄の自立が継続できるようリハビリ等も行っている。</p>	<p>排泄パターンを把握したトイレ誘導を基本としている。極力、共同トイレを使用し、トイレで排泄が出来るよう努めている。利用者の体調が悪い時は、夜間のみポータブルトイレを設置する場合がある。リハビリ通院とトイレ誘導を取り進む中で、リハビリパンツから布パンツに移行した例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄表にて排便の有無を確認している。主治医に相談し 指示を受け対応している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日は原則週2回で設定しているが，利用者の気分や体調等により曜日変更や時間をずらしたり等の取り組みを行っている。</p>	<p>週2回の午前浴、本人の気分や体調に合わせて柔軟な対応をしている。冬季時期または医師からの指示があれば、足浴を実施し、入浴後の保湿にも細かな配慮をしている。シャワーチェアやミストシャワーなど適切な入浴補助具を使用している。適宜、入浴剤を活用し、温泉気分を楽しんで頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	生活習慣や本人の体調や気分の変化により休息を促す等している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	薬は指定の薬局から薬剤師が来て管理している。お薬カレンダーにセットし 臨時処方や変更にも随時対応可能である。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	行事や日々のレクリエーションが利用者の特技や趣味を取り入れたものになるよう努力している。残存機能を活かした作業や仕事を考案し実行している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	散歩等の外出支援を行い、気分転換等に努めている。また、本人の外出希望が強く職員での対応が困難な場合には家族に連絡し外出支援の協力を仰ぐ場合もある。その場合安全を考慮して車椅子の使用も提案する。	近隣の公園や街並みを散歩したり、地域の秋祭りや花火大会などの雰囲気を楽しんでいる。現在はコロナ禍で外出自粛だが、職員が付き添いで法人医療機関のリハビリに週3回行くことや家族の付き添いで専門医への病院受診に行くことが唯一の気分転換や楽しみになっている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	小額のお金は預かっているが、出納帳で個人の金銭を管理しており、本人の希望時等必要時は使用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望時には支援を行っている。付添にて切手の購入や投函に出かけることもある。携帯電話を利用されている入居者もあり自由に外部と連絡可能である。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節に応じた飾りや季節の花等を取り入れ、利用者が四季を感じれるよう配慮している。また、施設内の清掃は原則毎日実施し、清潔に配慮している。</p>	<p>利用者と職員と一緒に季節毎の作品、小物などを飾り付け、穏やかな雰囲気がある。歩行器使用など利用者の状況により、定期的に席替えやテーブルなどの角度の配置を工夫している。廊下にソファが配置され窮屈なくゆっくりとくつろぐことができる。温度や湿度を気にかけ、過ごしやすい環境を整えている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食事の席の配置等は配慮している利用者同士のトラブルや同じ体勢が続くと褥瘡発症に繋がるため定期的に席の変更をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は本人の好みに合わせ、ある程度自由に設定して頂いている。自宅から使い慣れた家具の持ち込みも可能である。</p>	<p>利用開始前には見学をお願いし、参考に必要物品表を手渡している。居心地良く生活して頂くために、室内への持ち込みは基本的には自由となっている。利用時はベッドと収納家具のみの設置であり、慣れ親しんだ家具や今まで使っていた馴染みの物を設置しやすいよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>施設内はバリアフリーの作りになっており、車イスの利用者でも自由に移動できるよう配慮している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ぐるーぷほーむ九嶺

作成日 令和3年9月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	現在、外部との関わりが困難な状況であり運営推進会議や外部講師を招いての研修等が実施出来ない。	会議の議事録送付以外に出来る事は無いか、市町や他の部署との連携を考える。	法人内の居宅介護支援事業所やデイケアから情報を得る。他の施設の情報を収集する。	約三ヶ月
2	18	リハビリや他科への受診以外の外出や家族との面会が出来ない。	今の状況では仕方ないが、家族とリモートで面会させてあげたい。	今月中にはネット環境が整備される予定です。	約一ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。